

道新こども新聞

週刊まなぶぶん



HBC
小さなレストランの挑戦
*** 米倉涼子を魅了した三ツ星の味
今日 12時 4時

2015年 8月8日 第23号

北海道のものづくり すごい!

さつぼろ
札幌の「テクノフェア」高校生も見学

手先が器用で、根気のいる作業をこつこつとていねいに行うのは、日本人の得意分野といわれています。こうした能力を生かせる製造業は「ものづくり産業」ともよばれています。7月の終わりが、北海道内外の209の会社などが札幌に集まり、それぞれの技術の高さをPRしました。今年は札幌や小樽の高校生もまねかれ、目を見がやかせながら日本の底力を感じていました。

(根本剛)



野菜や果物を自動で選別する装置の説明を熱心に聞く小樽工業高の生徒(浜本道夫撮影)

道新AR
「ものづくりテクノフェア」の動画 真コラーージュにかざします。画面に写真をスマートフォンやタブレットで見ることが出来ます。アプリ「道新AR」をインストールし、それを起動して写真をかざすと、動画が自動的に始まり、動きがとどろく電子版でも見られます。

4400人が来場 ■「技術者増えるきっかけに」

このもおおしは「ものづくりテクノフェア」。北洋銀行(札幌)が開きました。さまざまな機械やものの部品などを作る会社が集まり、使ってくれる別の会社へ売りこむ場です。9回目となった今年は、過去最高の4400人が訪れました。

今年は初めて高校生がしようたいされました。札幌工業、札幌製菓工業、小樽工業の3校の1600人です。北洋銀行の地域産業支援部管理役の中井英樹さん(51)は、「道内の工業高校を卒業した人の多くは、道外に就職してしまう。地元にもものづくりの会社があることを、もっと知ってほしい」と言います。

毎年参加している会社の一つ「エフ・イー」(旭川)は、野菜の洗浄機などを製造しています。今年には野菜や果物をサイズごとに自動で選別する装置を展示、高校生の前で実演しました。社長の佐々木通彦さん(59)は「高校生は、学校の勉強がものづくりに生かされることを知ったのではないのでしょうか。若い技術者が増えるきっかけになればいいと思います」と期待します。

選別装置を熱心に見ていた小樽工業高電気科1年の小林凌さん(15)は「道内に就職したいと思っています。どの会社の仕事も興味深く、自分もこんな機械をつくってみたいと思った」と楽しそうでした。

2面に続く